

第5回
グリーンイメージ
国際環境映像祭
グリーンイメージ賞

半世紀もの間、ダム建設に抗いふるさとを守り続ける人々。
美しい里山に暮らす13世帯を巡るドキュメンタリー

長編ドキュメンタリー

ほたるの川の まもりびと

プロデューサー：山田英治、辻井舞行、江口朝三 監督：山田英治 撮影：古々新 編集：奥島洋、野村徹太郎 編集監修：安岡卓治 音楽：青空
制作：NPO法人 Better than today. 2017年/日本/88分/デジタル/16:9/ドキュメンタリー 配給：ふんふんフィルムズ

patagonia  @CAMERON OPERATIONS             hotaruriver.net

ほたる祭りの

生きるって
美しい。

水の底より今の故郷





椎名誠

(作家)

国家権力の元、強引に迫ってくる妥協のない自然破壊のなかで、おだやかな人間のこころそのままに里山を守ろうとする人々の淡々とした描写が美しい。決していきりたつこともなく、しかし粘り強く手をつなぎ、真剣にたたかう人間の力に感動した。

森達也

(映画監督・作家)

国や行政が一方的に決める。住民は反対する。国や行政は圧倒的な人員と機材で住民を圧倒する。例えば米軍基地。例えば原発。日本中で見かける光景だ。僕たちは弱い。国は強い。でもあきらめない。だってこんなに美しい。こんなに豊かな。

ごく普通の暮らしを、ごく普通にしたい。

朝、子どもたちが学校に行く、父と娘がキャッチボールをしている、季節ごとの農作業、おばあちゃんたちがおしゃべりしている。それは一見、ごく普通の日本の田舎の暮らし。昔ながらの里山の風景が残る、長崎県川棚町こうばる地区にダム建設の話が持ち上がったのが半世紀ほど前。50年もの長い間、こうばる地区の住民たちは、ダム計画に翻弄されてきました。現在残っている家族は、13世帯。長い間、苦楽を共にしてきた住民の結束は固く、54人がまるで一つの家族のようです。ダム建設のための工事車両を入れさせまいと、毎朝、おばあちゃんたちは必ずバリアード前に集い、座り込みます。こんなにも住民が抵抗しているのに進められようとしている石木ダム。この作品には「ふるさと=暮らし」を守る、ふれぬ住民ひとりひとりの思いが詰まっています。



石木ダムとは!?

石木ダムの建設計画は、約半世紀前の1962年に持ち上がりました。事業の主体は、長崎県と佐世保市。ダムの目的は利水と治水。利水とは水産事業。しかし、人口減により水需要が年々減少している。また治水の面では、石木川は、注ぎ込む川棚川の流域面積の9分の1にすぎない。その川にダムをつくることで、果たして治水に有効なのだろうか。地域住民は、ダム建設の根拠について、もう一度検証すべきとしています。

●詳しくはこちらより、<http://www.ishikigawa.jp>



お問い合わせ:ふんふんフィルムズ(上校邸) E-mail info@hotaruriver.net

www.fb.com/savekobaru/

公式サイト hotaruriver.net

7.7(土)よりユーロスペースにて公開

全国共通劇場鑑賞券1,300円(税込)販売中! (単日一般1,900円)

映画・文化村東京進出支援
ユーロスペース
EUROSPACE

03(3461)0211 eurospace.co.jp

